

福岡県立山門高等学校



同窓会だより

2011.3.1

第14号

山門高等学校 創立98周年 OBを迎え記念講演



【講師】 清水建設株式会社
技術研究所原子力施設技術センター
地震動グループ長

壇 一男氏

(昭和53年卒)

昨年、10月30日に創立98周年記念行事が開催され、清水建設株式会社技術研究所原子力施設技術センター、地震動グループのグループ長をされている壇一男氏より、「一期一会」と題して、「学問の意義」など、非常に価値のあるお話をいただきました。

山門高校生に身に付けて欲しい3つのこととして、

(1) 人の気持ちや考えが分かる人になること

(2) 自分で考える力を付けること

(3) 自分の気持ちを他人に分かるように表現すること

が大切で、この3つができるようになった後は、「道を切り開く力を付ける」という高い目標を掲げられました。

「なぜ勉強するのか」という問いの答えを自分で見出すために、「量よりも質が大切であること」、「授業に集中すること」、「テストを受ける意味」など、明日の学習から生かしていけるような数多くのアドバイスをいただきました。

これを機に生徒たちは、普段の自分の学習を見直し、より高い目標を持って学校生活を送れることでしょう。

本校は平成24年に創立百周年を迎えます



山門高校は平成24年10月に創立百周年を迎えます。

記念事業実行委員会はスポーツ・文化活動支援基金創設等の事業費1億2千万円の募金を行います。

同窓生の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

創立百周年と

校章校歌をおもう



山門高校同窓会
会長
板橋 元昭

県立山門高等学校は明治四十五年（一八二二年）開設の瀬高芸女学校に始まり平成二十四年（二〇一二年）に創立百周年を迎えます。既に学校、父母教師会、同窓会の三者による、創立百周年記念事業実行委員会が発足し、意義ある百周年にすべくその準備が進んでいます。しかし社会は少子化が急速に進んでおり高校生人口は減少の一途を辿っています。歴史と伝統だけでは学校は生き残れない時代です。

私達の母校には三年前に同窓生初の井上正明校長（昭和四十七年卒）が誕生し、飛躍をめざし奮闘中です。同窓会では昨年、活動の広がりと弾力性を計るべく常任理事会の設置が決まりました。私達は百周年を機に母校を支援する力をつけ名実共に学校、父母教師会と三位一体の活動を通して山門高校を更に存在感のある学校に雄飛させなければならぬと思います。

今春五月の総会に、創立百周年記念事業実行委員会が進めるスポーツ・文化活動支援基金創設等の事業費一億二千万円の募金計画を報告し、同窓生の皆様にご理解、ご協力をお願いすることにしており

昨年は四月十日に福岡国際ホールで福岡山門会の総会、五月三日に母校の体育館で本部総会、十一月六日に東京九段会館で関東支部総会が行われました。

三会場合わせて千三百名余の参加があり賑やかで楽しい交流が行われました。

さて、同窓会に参加すれば全員で校歌を斉唱する場面があります。その時自分の歩みに気付き元気が出て、心の安らぎを覚えられる方が多いのではないのでしょうか？卒業して年月が経つにつれ高校時代の事も記憶からうすれていきます。脳裏に浮かぶのは青春を共にした同窓生の仲間の事であったり、お世話を受けた恩師の先生の事であったり、通学途上で見た学校周辺の町並や在学していた頃の学校の風情であります。しかしこれ等は時の流れの中で変貌し消滅してゆきます。そして変わらないのは母校の校章と校歌です。

因案化した「山」の下に大小四枚の柏の葉をあしらった校章は、昭和二十三年学制改革により県立山門高等学校となり初めて男女共学が実施された翌昭和二十四年（一九四九年）、全校生から意匠を募り全校生の採決により決定された当時一年生だった昭和二十七年卒同窓生、森 属氏の応募作品であります。創立九十周年記念事業として建設された同窓会館「柏友館」の愛称は校章に由来して命名されました。「あさみどり」ではじまる校歌は当時町立瀬高中学校で教鞭をとられた後に瀬高町の教育長をお務めになった作詞家として名高い、龍 英二先生の労作

であります。地域の状況を熟知さ

れていた先生の作品だけに一番から三番までの歌詞は山門高校のイメージが大変良く出ていると思います。そして曲は内川 美谷子先生につけていただいています。荘重なメロディの中に猛々しい強さを感じさせる歌になっていることを感じます。

時は移り人は変わっても山門高校は未来水劫発展を続け在校生、地域、同窓生に自信と誇りを持たせる学校であって欲しいものです。そして私達は胸を張って元氣良く自信に満ちて校歌を歌い続ける同窓会員であり同窓生の集団でありたいと願うところで。

校歌

作詞 龍 英二 作曲 内川 美谷子
1. あさみどり

真澄める そらに 仰ぎみる
雲仙の峰 かがやかに
若き生徒の 夢をよぶ
おわれら さやけき胸に
至誠の光 照りととる
山門高校 山門高校 誇りあり

2. 春日さす
清水山の 花がすみ
はぜの紅葉に 秋たけて
春秋めぐる 三景霜
おわれら ちつみて永久に
信愛の情 あふれわく
山門高校 山門高校 栄あり

3. 不知火の
有明海に 注ぎゆく
清流矢部の せせらぎに
自然の啓示 学ばずや
おわれら 日々新しく
創造の玉 みがきゆく
山門高校 山門高校 使命あり

「教育」の価値



山門高校
校長
井上 正明

ある話から。母親と離れて養護施設に入所しているA子ちゃんに、施設の先生が小学校の算数の話（お金の価値）をしています。「五百円ではこれだけのものが買える。五百円ではこれだけ買える。十円でこれだけしか買えない。A子ちゃん、どのお金がいいですか？」と。A子ちゃんは「十円玉」を指さしました。先生は、わからない子だ

ねといながら、A子ちゃんと同じように質問をしました。それでもA子ちゃんは「十円玉」を指さしました。先生はA子ちゃんに「どうして十円玉がいいの？」と聞きました。A子ちゃんは「この十円玉でお母さんの声が聞ける」と答えました。

戦後の日本は、経済的復興を遂げるために追いつけ追い越せの勢いで豊かな社会を実現させてきました。その結果、私たちは物質的に恵まれた生活を営むことができるとなりました。いつでも、どこでも、なんでも、欲しいものは手に入れることができるようになり

物質的に恵まれていることと心が豊かである、あるいは精神的に充実していることとの間に隙間のような違和感が感じられるようになってきました。この隙間にあるのは何でしょうか。この隙間にある違和感は、欲しいものと必要なものとの区別がつかなくなってきたのです。いったん手に入れば欲しいから買うという購買欲は、他のものに目移りをしてしまうこととなります。人の欲望（物欲）には限りがないのです。このようにして身の回りにはものが溢れていくのです。必要なもの以上に欲しいもので溢れてしまってきたのです。

豊かで便利になった社会を生きていく子どもたちに対して、学校教育は「世の中には貨幣価値でかれないものがある」ということを教えないければならないのかもしれない。貨幣価値ではかることができないものとは、例えば、「友情」「人の命」「努力することの大切さ」さらには「幸せ（幸福）になる」ということです。それは、自分は周囲から必要とされている、大切にされている、あるいは、自分はその役に立っているという実感でしょう。そういえば「人」の「為」と書いて「偽」といいます。人のために尽くすことは必ず回り回って自分のためになるのです。平成二十四年福岡県立山門高等学校が創立百周年を機に、さらに伝統と新たな歴史の一步を大きく進めることを期待します。

同窓会総会を終えて

前年度実行委員長 六十三年度 坂田 光博

昨年同窓会総会におきましては、大勢の皆様にご参加いただき盛会のうちに終了することができました。

学校施設を快く提供して下さいました井上校長先生をはじめ関係職員の方、山門高校同窓会、板橋会長をはじめ関係役員の皆様方、その他、総会開催にご協力いただきましたすべての皆様方に、心よりお礼申し上げます。この様な同窓会総会が盛大に開催されるのも百年近くに渡り母校「山門高校」の歴史と伝統を創り上げてこられた同窓生の尽力の賜だと思えます。また、あれだけ大勢の同窓生の皆さんが母校の名のもとに集まって来られる姿を見て、改めて「山門高校」の存在の大きさと、母校に対する皆さんの愛情の深さを実感しました。この伝統行事に参加させていただいたことを、昭和六十三年卒の実行委員会を代表いたしまして衷心より感謝申し上げます。

さて、今回は「未来へ」今、私たちにできることをテーマとして開催いたしました。

例年と違って第一部に講演会を行うという初めて、試みでしたが、早朝にも関わらず、想像を上回る千名の皆さんに会場が最高潮と、なりました。講師には、テレビでも人気急上昇中の獨協大学教

授で経済アナリストの森水卓郎氏をお招きし「年収三百万円時代を生き抜く経済学」という同氏のベストセラーにもなった著書の題目で講演していただきました。



堅いイメージの演題からは想像出来ないような楽しい話で、会場は終始、笑い声に包まれていました。特に印象に残ったのは、「日本は圧倒的に人件費の差がある中国と価格競争をしても決して豊かになるはずがない」「ラテンでフランクな考え方の国民性とブランド力などの付加価値で勝負するイタリアを見習い楽しく生きよべき」と軽快、巧妙な口調で、お話しされました。楽しいなかにも非常に興味深い講演で、一時間はいつう間に過ぎてしまいました。

続いて第二部の総会は例年とちがって超演員の会場で行われました。挨拶をされた役員、来賓、議長のみなさんも、いつもと違う会

場の雰囲気と違和感があるように見えました。皆様のご協力ももちまして、滞りなく議案が審議されました。

続く第三部では、山門高校卒業生で現在はアメリカで活動中ジャズボーカリストのERIKAさんによるライブを楽しんでいただきました。彼女の歌声に魅了され、ちよつと贅沢な時間を過ごしていただけたと思います。乾杯後の懇親会では学年の枠を超えて多くの同窓生の交流が始まり、笑い声が絶えないまま終わりました。

一年前に先輩からタスキを引き継いで以来、近隣の同級生から始まった実行委員会でしたが、次第に全国に広がり、「一生に一度のチャンス」を皆で精一杯楽しもうという掛け声のもと当日は百名以上が集まってくれました。この仲間達と出会えたことは私の一生の宝ものです。この素晴らしい経験と伝統を、後輩たちにも引き継いでいきたいと思えます。

最後に同窓会総会が永遠に続きますよう、また平成二十三年総会のさらなる発展を祈念申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。



シリーズ 名物先生

その④



熊谷智彦先生

私たち昭和六十三年卒業生が三年生の時に担任としてご指導いただいた熊谷(旧姓:古賀)智彦先生にお話を伺いました。

現在は私立立川留米学園高等学校の校長先生として活躍されております。

◎山門高校についての思い出は?

私は、昭和五十九年からちょうど十年間山門高校に勤務しました。赴任時は二十八歳、顔は若くていしましたが、バリバリの青年教師でした。若さからくる生徒たちと私の自我と自我のぶつかり合いは、今思えば懐かしい思い出です。マラソン大会では生徒と共に走り、寒稽古では防具を付け、竹刀を振り回しました。卒業式後のHRで合唱した中島みゆきの「時代」は、今聞けば走馬灯のように当時のことを思い出させてくれます。(たぶん歌ったことが覚えてるのは私だけでしょうか)

バドミントン部の顧問として、生徒と一緒に汗を流し、学校の練習後も部員と町内の体育館へ出かけていました。私自身は、バドミントンには全然ダメでしたが、「九州大会・インターハイ出場」を合言葉に、奮闘努力していた部員の姿は忘れられません。今、OB、OG

だけでなく、この時お世話になった多くの人たちと顔を合わせることも多く、この時の出会いが私の宝物です。

◎生徒の進路実現に必要なことは?

山門高校は、先生と生徒の距離が近く、「マンツーマン」で一八ひとりの力を伸ばすことを伝統に、その実績を残してきました。解らないところは、すぐに先生に教える。時には厳しい指導があるかも知れませんが、授業と課題を怠らせずに通り遂げたものだけが最後に笑えるのです。現に皆さんは、目の前の先輩たちが、それを実行している姿を見ているはずですよ。「己を信じる」と、これが必勝法です。

◎在校生の皆さんにメッセージ

山門高校を離任しても、大会会場や新聞・雑誌等で校名を見たり、聞いたりすれば、目が行き、その結果が気になります。山門高校生の活躍を陰ながら応援している旧職員が、ここにもいることを忘れないで下さい。

「山門高校生、頑張れ。」

◎ありがとうございました。
取材 上田 恭輔(六十三年度)

平成二十三年年度 同窓会総会に向けて テーマ「縁(えにし)〜絆は永久に〜」



実行委員長
平成元年卒
河野 一仁

早春の候、同窓生の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成二十三年年度の同窓会総会は、私ども平成元年卒業が担当させていただきます。

卒業して二十二年、不惑の四十歳を迎えた私たち平成元年卒の仲間たちで、伝統ある山門高校同窓会総会の実行委員を務めさせていただきますという光栄と、責任の重大さに身が引き締まる思いでございます。

昨年五月三日に、先輩から擧げ引き継ぎ、少人数での実行委員会を立ち上げたものの、右も左もわからず、不惑の四十歳どころか、迷いだらけのスタートでした。

しかし、この状況を救っていただいたのが、諸先輩方からのご指導と励ましの言葉の数々でした。

この連綿と続く先輩後輩の關係こそが、伝統ある山門高校と確信できたのも、この同窓会総会の恩恵の一つでもあるかと思えます。

さて、我々平成元年卒の同窓会をお正月に開き、今年度のテーマを参加者一同で検討した結果、「縁(えにし)〜絆は永久に〜」と決ま

りました。

人生の幸不幸は、経済の豊かさや、地位や名誉でもなく、「志あるものと出逢い」、「誰かのために喜びを与え続け」、「そして」、「その喜びを仲間と共に分かちあうことが出来たかどうか」ではないかと思

今、この日本を見渡して見ると、国家政治の混乱から始まり、景気低迷、格差社会、雇用不安と、暗いニュースばかりが先行し、マスクも明るいニュースよりも、こぞって暗い話題を中心に世の中を誘導し、負の連鎖を巻き起こしているのではないかとさえ感じてしまうこともしばしばあります。

そんな世の中に光を与えるのは、難しい経済論ではなく、誰にでも出来る「笑い」ではないでしょうか。最近では、インド人医師のカタリア博士が「笑いヨガ」という、「笑いの体操とヨガの呼吸法を組み合わせたもの」を全世界六十

五ヶ国まで広め、「笑い」を病気の治療法の一つとして、とらえるまでになってきています。そして日本では、笑いと涙で「元氣と勇氣とやる氣」を与え続けられてい

が、今回同窓会総会の講師としてお招きする「島田洋七氏」です。

島田洋七氏は、言わずと知れた「佐賀のばいばあちゃん」との思い出を元に笑いあり、涙ありで繰り広げるがばいトークが魅力です。洋七流子育て論、洋七流健康法、楽しい歳の取り方、不況の乗り換え方など、幅広い話題を提供されてあります。もちろん、根底には漫才師ならではの「間」を取り入れた「笑い」が盛りだくさん。

講師歴二十五年超、講演実績約四千箇所。各地で「元氣をもらった」との声も多数上がっていますので、どうぞご参加の皆様で大いに「笑い」、世の中を明るくしていきます。

最後になりましたが、同窓会総会開催準備にあたり、快く施設等を開放してくださいました山門高校と、関係各位の皆様方に心から感謝を申し上げます。益々の皆様のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます。



▲ 島田 洋七氏

進路部より

進路指導主事 中村 辰男

同窓会の皆様方には日頃から本校教育活動に対してご支援・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

本校では平成九年度に理数コースが設置されて以来、理数コースを中核に掲げた教育活動が展開されております。そこで、進路指導におきましては、平成十一年度から「夢発見プラン」という進路学習を行っています。さらに平成二十年

度からはそのプランに改良を加え、生徒がより具体的・現実的に夢を描けるよう工夫しました。その中で、生徒は自分の夢を実現するための日々努力を重ねているところで

す。

一月七日現在の進路状況をお知らせします。国公立大2名、私大17名、短大・専門学校24名が推薦等で合格。公務員は国家三種・裁判所・刑務官・福岡県警各1名、県職・自衛隊看護各2名が最終合格。また、防衛大は10名が一次合格しています。

これからセンター試験・私大・国公立大と受験が続いていきます。生徒の進路実現のため教職員一丸となり頑張っております。



福岡山門会 総会のご案内

〔名称〕

福岡山門会総会・懇親会

〔日時〕

平成二十三年四月九日(土)
午後一時受付 午後二時半開始

〔場所〕

福岡国際ホール(博多大丸16階)

〒812-8555(二二)八八五五

〔会費〕

男性七千円

女性六千円

〔問い合わせ先〕

〒812-8555(八六)四三二五
福岡口商會 福岡口

平成22年度卒業生

(平成23年3月卒業)

同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	浦川 涼人	○佐々木 遥香
2組	田村 圭	足利 璃奈
3組	大塚 稔真	増田 瑞紀
4組	○久富 真道	山本 有紗
5組	野田 知祥	石井 理紗

(○は学年代表)



平成16年度制定の
山門高校エンブレム
清水山のきき車台図がモチーフ

編集室より

今年の会報14号は、昭和63年卒の実行委員会が編集いたしました。早く寄稿していただき感謝申し上げます。